

神奈川県 の 羊 歯 植 物  
(4)

大 谷 茂\*

Fern Flora of the Kanagawa Prefecture, Japan  
(4)

Shigeru OHTANI\*  
(With 4 Plates)

I. 緒 言

この報告は本誌 14 号 (1968) につづくものである。

ここに発表したものは、オンダ科 (Aspidiaceae) のなかで、Lunathyrium, Matteuccia, Onoclea, Polystichum の 4 属である。

各々の種の分布資料は著者の検し得た主要標本産地を原則としてあげた。また一部は著者が確認した自生地をあげ、さらに信頼できる文献も引用している。

科、属、種の配列および学名は、行方・倉田、共編の日本産シダ植物総目録によっているが、一部は最近発表された文献によって最も新しいものを採用している。

生活型 (Life form) ならびに繁殖型 (Reproductive form) については本報告 (1)、本誌 12 号 (1966) を参照されたい。

この報告をするにあたって、助言ならびに資料の提供など協力された大場秀章氏を始め田代信二、飯田 和、府川勝蔵、守矢淳一などの諸氏および横浜植物会、小田原羊歯研究会、鎌倉みちくさ会、横須賀植物会の諸会員に深く謝意を表する。

II. 神奈川県産の種類とその分布

Classification and Distribution of the Pteridophyta of Kanagawa Pref.

18. Aspidiaceae オンダ科

Lunathyrium Koidz. ミヤマシケンダ属

Lunathyrium 属はミヤマシケンダにもとづいて説立されたが、最近シケンダ類、オオヒメワラビ類を含めて、Athyrium 属、Diplazium 属から分離することになった。

Lunathyrium 属は現在:

- Sect. 1 Lunathyrium ミヤマシケンダ節
- Sect. 2 Athyriopsis シケンダ節
- Sect. 3 Dryoathyrium オオヒメワラビ節

\* 横須賀市博物館, Yokosuka City Museum, Yokosuka, Japan.

Collections Examined:

TI, Department of Botany, Faculty of Science, University of Tokyo.

TOFO, Forest Botany, Faculty of Agriculture, University of Tokyo.

NSM, National Science Museum, Tokyo.

YCM, Yokosuka City Museum, Yokosuka.

の三節に分けられている。

このうち *Athyriopsis* 即ちシケンダ類は難解のもので、区別することが難しく未解決の点が非常に多い。その全実体を正しく把握することは将来の研究に残されている。

種として残るのは、ナチシケンダ、シケンダ、コヒロハシケンダくらいのもので、ホソバシケンダ、ヤリノホシケンダ、セイタカシケンダなどは種としてはつぶれるかもしれない。

大場秀章氏は数年来このシケンダ類の研究にとりくんでおられるので、近くその分類が一変することと思うが、ここでは大場氏が著者によせられた手記をあげるにとどめる。

[154] *Lunathyrium angustatum* (NAKAI) H. OHBA ヤリノホシケンダ (中井, 1949) H(d)  
D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

丹沢：幽神～玄倉 (大場秀章, 1962. 8. 23, No. 10932, TI), 玄倉 (大場秀章, 1962. 8. 24, No. 10909, YCM)。

足柄上郡道了尊 (飯田 和, 採集年?, TOFO)。シケンダ類の分類は非常にむずかしいもので、従来、シケンダ、ホソバシケンダと同定したものの中にも本種がまじっていると思われるので検討しなおす必要がある。

(大場秀章氏手記)：ヤリノホシケンダは外見上、シケンダとホソバシケンダの間をうめる個体群で、観察しえた範囲では生殖細胞の分裂は異常で不完全 (不稔か) である。しかし、こうした形態を具える個体がすべて生殖細胞異常だなどとは言えないし、またこれが中間という意味で両者の雑種であるなどと簡単に考えることは科学的根拠をもっていない。確かに中間的といえばそれは一つの抽象として、この個体の形態を想像できうるが、生活実体としての中間型は存在しえるのだろうか。仮りに両者の形質のある部分を具えるからと言って、それが中間離種であるなどと割切ることにはできないだろう。

ヤリノホシケンダの諸形質は、むしろシケンダの幼時期に現われる形態を示し、シケンダから派生由来したことを示唆するように思える。

分類上の単位として、こうした異常個体を軽々しく取り扱ってしまった私自身の軽率さは批判されねばならない。

[155] *Lunathyrium Conilii* (FR. et SAV.) KURATA ホソバシケンダ (牧野, 1906) H(d)  
D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

川崎：登戸 (武蔵登戸付近植物目録, 1932)。

横浜：鶴見三ツ池 (府川勝藏, 1934. 10), 帷子川流域 (出口長男, 1952), 南区日野 (長谷川義人, 1956. 8. 27 YCM)。

三浦：横須賀周辺 (Savatier, No. 1555, 2574, 2576, Enum. Pl.Jap. 1879), 逗子市神武寺 (大谷 茂, 1959. 8. 10 YCM)。

鎌倉円覚寺 (津山 尚, 1933. 6. 26. TI)。

大磯高麗山 (守矢淳一, 1952. 11. 16)。

愛甲郡厚木市七沢 (逸見 操, 1957. 10. 20 YCM)。

大山 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957)。

丹沢：札掛 (倉田 悟, 1956), ヤビツ峠～札掛 (大場秀章, 1962. 8. 21, No. 10774, TI), 塔ヶ岳 (大場秀章, 1962. 8. 22, No. 10824, TI), 檜洞沢 (大場秀章, 1962. 8.23 YCM)。

足柄下郡橋町前川 (田代信二, 1957)。

箱根：箱根 (Savatier, Enum. Pl. Jap. 1879), 湯本 (箱根植物目録, 1913), 早川上流・台岳・二子山・金時山 (小田原羊歯研究グループ, 1957), 宮城野 (西山清治, 1965. 7. 27 YCM)。

本種は初め Franchet と Savatier 両氏の記載発表になるもので Type locality は横須賀である。

(大場秀章氏手記)：ホソバシケンダは孢子嚢を生じる葉とそうでない葉との間の大きさの違いが、シケンダの単なる貧弱な個体とか、成長途上の個体などから区別する上での大きな形質として採用されている。

5年くらい、いろいろな条件のもとで栽培した場合では、その形質は、各々の個体で安定している。しかし野外ではホソバシケンダの生育地に多くの場合シケンダもみられ、しかもそれらの種類間で、この形質は不連続とは言い難いことが多い。

標本の上では、葉の大きさや羽片の先端が円頭であるなどの形質で鑑別できなくもないが、野外で観察した生活を考慮するなら、種として取り扱われる分類群であるかどうか大変疑問である。

学名として *Asplenium conilii* FRANCH. et SAVAT. が正しいかどうか記載からは判断できないし、まだそれを論ずる段階でもない。

なお神奈川県と特に関連のある Franchet と Savatier の Enumeratio Plantarum in Japonia sponte crescentium 2 vols. からシケンダに関係するところを引用してみよう。

シケンダはその2巻(1879)に含まれ、シケンダは *Asplenium* として扱われている。ホソバシケンダの *Asplenium Conilii* は本書で記載されているのであるが、非常に簡単である。まず引用してみると：

“葉は大変幅狭く、(2.5~3 cm), 羽片はほぼ等しいが最下の2対の羽片だけが、しばしば広く拡がる。葉の線型である点は *Asplenium japonicum* シケンダに *A. conilii* を含めてしまうのを私達の考えでは許さぬ。*A. japonicum* の葉は通常は多少とも三角状である。孢子は円く甚しい突起が表面についている。”

引用されている産地は、九州の山岳地域の森林 (de Brandt), 日本, 横須賀周辺 (Savatier, 1879) および箱根山中。

これを読んだだけでは私達がホソバシケンダとして扱っている諸個体が Franchet らの記載した *Asplenium Conilii* と同じ種類として見做すことができるかどうか、標本に当るほか判りかねる。なぜならシケンダの分類上重要視される形質について何も語られていないためである。

引用標本中、箱根は納得できるが、他のものはナチシケンダであるかも知れない。

[156] *Lunathyrium dimorphophyllum* (KOIDZ.) KURATA      セイタカシケンダ (小泉, 1931)  
H(d) D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

横浜：帷子川流域、中部以西、上川井 (出口長男, 1952. 9. 4 YCM, 著者の検したところでは疑問品である), 南区中野庭 (長谷川義人, 1956. 8. 5 YCM)。

三浦：逗子市神武寺 (久内清孝, 1931. 11. 24 の採品を府川勝蔵氏が所蔵している), 同 (大谷茂, 1954. 8. 12 YCM), , 葉山町二子山谷 (大谷 茂, 1949. 9. 25 YCM)。

大磯高麗山 (守矢淳一, 1965. 11. 28 YCM), 同 (同, 1966. 8. 6)。

津久井郡城山 (久内清孝, 1968. 9. 14 YCM)。

丹沢札掛 (倉田 悟, 1956, 布川流域の札掛より下流または本谷川下流の低所に多い)。

道了山 (飯田 和, 1956. 11. 3)。

小田原：入生田 (飯田 和, 1956), 小田原城趾 (飯田 和, 1958)。



箱根：早川（飯田 和, 1956）、宮城野（西山清治, 1965. 7. 27 YCM）。

真鶴（飯田 和, 1956）、同（守矢淳一, 1957. 11. 10 YCM）。

奥湯河原（倉田 悟, TOFO）。

セイタカシケンダの Lecto type は、京都の鞍馬産であるが、本種の関東地方における最初の発見は久内清孝先生であって、逗子市神武寺で採集されている。

（大場秀章氏手記）：セイタカシケンダは、日本産のものに命名された *Diplazium dimorphophyllum* KOIDZ. に与えられた和名である。その特徴は、田川基二先生の図鑑によく記載されているが、さらに大場（1966）が指摘したように包膜上に多細胞の透明な毛を散生する形質が重要な分類形質として加えられるであろう。

これとシケンダおよびムクゲシケンダの分類上の取り扱いは今のところ何とも言えないし、すでに Franchet と Savatier (1879) が、このセイタカシケンダに *Asplenium lasiopteris* METT. を当てているように、これとの差異および関連もまだ判っていない。

Franchet と Savatier (1879) のノートを訳すと次のようになる。即ち“本種は *Asplenium japonicum* シケンダの良く発育した個体に大変よく類似しているが、眼下にある資料（訳註：生きたものか、乾いた標本か判断に苦しむ）によれば、葉柄、中軸および葉身に多少なりとも多くの毛がある点以外区分することはできない。”

このノートは、セイタカシケンダを示唆するが、これだけでは判らない。

〔付記〕 *Lunathyrium dimorphophyllum* (KOIDZ.) KURATA

var. *Kiusianum* (KOIDZ.) KURATA ムクゲシケンダ (小泉, 1931) H(d)D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

本種を丹沢札掛～諸戸間で村瀬信義氏が採集（1957. 8. 4）し神奈川県新産として報告（1960）しているが、その標本もなく著者は甚だ疑問とするものである。

ムクゲシケンダは暖帯性のシケンダで、下総、武蔵、伊豆、駿河、遠江あたりまで出てきているが相模では報告がなく、丹沢にはたしか鱗片の多いのがあるが、ムクゲとする必要はないもので丹沢山塊では今日もお確認ができない。村瀬氏の採品はおそらくセイタカシケンダの誤認ではなかろうか。

本羊歯はセイタカシケンダに極めて近似のもので、その実体を正しく把握することは、なかなか難しいものである。両典型品の中間型もあってその区別は容易でない。倉田先生もかつて品種“*Diplazium dimorphophyllum* KOIDZ. form. *Kiusianum* (KOIDZ.) KURATA”（1957）として発表されたこともある。

セイタカシケンダとシケンダの区別も必ずしも容易でないので、倉田先生や大場秀章氏の考えられるようにセイタカシケンダとムクゲシケンダはシケンダの変種か品種の関係に分類することが妥当であろう。

ムクゲシケンダのタイプは前原勘次郎氏が日肥国境付近で 1927 年採ったものである。

〔157〕 *Lunathyrium japonicum* (THUNB.) KURATA シケンダ (田中, 1871) H(d)D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

横浜：保土ヶ谷区仏向（府川勝蔵, 1934. 11. Det. 牧野富太郎, 1937. 2. 27）、南区弘明寺（長谷川義人, 1955. 12. 8 YCM）。

三浦：横須賀周辺（Savatier No. 1542 ter, Enum. Pl. Jap. 1879）、横須賀市阿部倉（大谷 茂, 1953. 8. 5 YCM）、同市大楠山（同, 1960. 6. 26 YCM）、同市田浦（同, 1964. 6. 10 YCM）、同



市池上 (小板橋八千代, 1966. 6. 7 YCM), 同市平作 (同, 1966. 6. 13 YCM), 三浦市三崎町諸磯 (大谷 茂, 1956. 9. 19 YCM), 逗子市神武寺 (本田正次, 1924. 12. 23, *Lunathyrium petersenii* との形態的な中間形, TI), 同 (長谷川義人, 1955. 12. 4 YCM), 同 (大谷 茂, 1959. 8. 30 YCM), 同 (大場秀章, 1960. 10. 1 YCM, 典型品), 同市沼間 (大谷 茂, 1959. 11. 22 YCM)。

鎌倉 (靱山泰一, 1933. 11 TI), 同市大船山ノ内 (寺本一雄, 1943. 9. 15TI)。

大磯高麗山 (守矢淳一, 1952. 11. 16)。

大山 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957), 同 (大谷 茂, 1964. 12. 13 YCM)。

丹沢蓑毛〜ヤビツ峠 (倉田 悟, 1956), 札掛 (大場秀章, 1962. 8. 21, No. 10810 TI), 塔ヶ岳〜幽神 (同, 1962. 8. 22, No. 10845 TI)。

愛甲郡清川村, 旧宮ヶ瀬 (逸見 操, 1956. 10. 10 YCM)。

山北酒水滝 (逸見 操, 1958. 8. 23 YCM, 典型品)。

箱根:湯本 (箱根植物目録, 1913), 早川上流・台岳・二子山・金時山 (小田原羊歯研究グループ, 1957)。

(大場秀章氏手記): Franchet と Savatier (1879) が報告している *Asplanium japonicum*  $\beta$ . *reflexum* は横須賀周辺の森 (Savatier No. 1542 ter) を原産地とするもので記載によれば, “下の方の羽片が向きが変わる (訳註: 多分, 下方にそるのだろう) 点だけ母種と異なっている” と言う。Franchet らのシケンダは多分日本で普通にシケンダと認識しているものと同じであることを説明文は示唆するので, この変種は時々シケンダにみられる記載通りの姿を示すものに当るのであると推定する。現代の分類学のセンスではもちろん区分するに及ばない。

同様に Franchet らは, *r. oldhami* Hook. et BAK. を九州長崎と横須賀 (Savatier No. 2574, 2576) および横浜に産することを報じている。これは彼らの説明によれば, 葉が三角形状で, 長さ 15 から 20 cm (葉身だけかも知れないが明らかでない), 幅 7 から 8 cm ほどの小さな個体だとのことである。標本に当る他いまは何も判読できない。ただ Hooker と Baker (1867) の原記載は何か私達がホソバンケンダと呼んでいるものに近いように思われるし, 田川基二先生の日本羊歯植物総目録 (1959) ではホソバンケンダのシノニムにされている。

[158] *Lunathyrium japonicum* (THUMB.) KURATA

var. *musashiense* H. OHBA ムサンシケンダ (大場, 1963) H(d)D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

三浦: 逗子市沼間 (大谷 茂, 1954. 11. 22 YCM, 神奈川県新産)。

ムサンシケンダは大形のシケンダで, 従来セイタカシケンダと混同されていたものである。上記三浦半島沼間産のものもセイタカシケンダ? としてあったもので, 大場秀章氏のムサンシケンダ発表後検討しなおした結果, 本種とわかったのである。シケンダ類 (Sect. *Athyriopsis*) は一応再検討する必要がある。著者は確認していないが, 神武寺 (奥山春季, 1932 NSM), 真鶴 (逸見 操, 1952 NSM) も本種であるとのことである。

ムサンシケンダのタイプは東京都調布市深大寺で大場秀章氏が 1965 年 9 月 2 日採ったもの (No. 1860) で, 本館に保管されている。

[159] *Lunathyrium petersenii* (KUNZE) H. OHBA ナチシケンダ (中井, 1949) H(e)(d)D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

三浦: 横須賀 (? Nov. TI), 葉山町二子山谷 (大谷 茂, 1949. 9. 25 YCM), 逗子神武寺 (靱山泰一, 1931. 8. 23 TI; 九里聡雄, 1932. 10. 10 TI; 津山 尚, 1932. 11. 27 TI), 同 (石渡治

一, 1951. 8. 7 YCM), 同 (大谷 茂, 1951. 11. 25 YCM), 同 (倉田 悟, 1959. 11. 3, No. 2059), 同 (大場秀章・大沢雅彦, 1961. 9. 23 YCM), 同 (大場秀章, No. 2286~2289, 2733 TOFO)。

小田原十字 (飯田 和, 1959. 5. 5 TOFO)。

ナチシケンダは紀州那智山で中島壽三氏が 1924 年に採集された標本にもとづいて, 中井猛之進博士が 1949 年に *Diplazium fimbriichlamys* NAKAI として命名記載されたものである。

ナチシケンダはシケンダの南方型であって従来はシケンダとして総括されていた。ナチシケンダが本県産のもので問題にされたのは倉田先生が安房から沖永良部にわたる分布を取り上げて以来のことで, そのなかに神武寺産をあげているのである。以来従前の採取標本を検討するようになって前記標本産地が明らかになったわけである。

(大場秀章氏手記): シケンダ (広義) は東南アジアの暖帯から熱帯に広く分布していて, その分布域内での環境の多様化にともなって形態上相異を生じるいくつかの対応種が生じたものと思われる。

日本のシケンダは, シケンダ (狭義) とナチシケンダに分けられると思うが, その見解は本報告 11 号 (1965) を参照していただきたい。

初島住彦教授が指摘されている通り学名の当否は問題であるが, 暫定的ではあるが, 日本の本土に広くみられるシケンダに Thunberg の長崎から記載された *Asplenium japonicum* を, 一方, 東南アジアに広く分布しているナチシケンダに広東から記載された *A. peterseii* を当てておきたいと思う。

この区分は今のところ染色体の倍数性の上からも支持されているが, 分布域に較べて資料が少ないのと, 外国からの報告をこのような場合うのみにできない点, 一層追求されねばならない。

[160] *Lunathyrium pycnosorum* (CHRIST) KOIDZUMI      ハクモウイノデ (松村, 1886) Ch (d)  
(r) D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

横浜帷子川流域上白根 (出口長男, 1952. 11. 16 YCM), 同上川井に 数 10 株群生すると出口氏は報告している, 1968)。

三浦: 逗子市神武寺 (大谷 茂, 1951. 8. 7 YCM, 三浦半島新産)。

大山 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957), 同 (逸見 操, 1958. 11. 9 YCM)。

丹沢: 札掛 (倉田 悟, 1956), 同 (大場秀章, 1962), 檜洞丸 (田代・飯田・西尾, 1957), 白石沢 (同, 1958), 東沢 (同, 1959. 8. 20), ユーシン~玄倉 (大場秀章, 1962. 8. 24 YCM)。

箱根: 箱根神社・元箱根 (箱根植物目録, 1913), 箱根 (府川勝蔵, 1933. 10. 15), 畑宿 (守矢淳一, 1955. 9. 25), 早川上流・台岳・二子山 (小田原羊歯研究グループ, 1957), 宮城野 (西山清治, 1965. 7. 27 YCM)。

奥湯河原 (大谷 茂, 1957 11. 10 YCM), 同 (飯田 和, 1962. 1. 8), 同 (石渡 宏, 1966. 9. 15 YCM)。

ミヤマシケンダ (松村, 1886) var. *alpestre* KURATA は葉柄, 葉軸がほとんど無毛になった北方型のものである。

[161] *Lunathyrium unifurcatum* (BAK.) KURATA  
var. *Okuboanum* (MAKINO) KURATA      オオヒメワラビ (牧野, 1889) H (d) D<sub>1</sub>R<sub>2</sub>

三浦: 横須賀市田浦温泉谷戸 (斎藤照一, 1960. 7. 25 YCM), 同 (大谷 茂, 1962. 6. 24 YCM),



三浦郡葉山町木古庭, 田浦 (久内清孝, 1933. 10. 29, 3 点, TI・NSM), 同町上山口 (小板橋八千代, 1966. 11. 21 YCM), 同 (大谷 茂, 1967. 6. 6 確認, 1 株自庭に移植)。

鎌倉今泉山 (久内清孝, 1957. 12. 16)。

愛甲郡谷太郎林道 (斎藤照一, 1963. 7. 14 YCM)。

箱根: 台岳 (小田原羊歯研究グループ, 1957. 8. 17)。

奥湯河原: 藤木川流域 (大谷 茂, 1933. 12. 2, 府川勝蔵氏所蔵), 同 (大谷 茂, 1957. 11. 10 YCM), 同 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957), 同 (守矢淳一, 1963. 9. 22), 同 (村上司郎, 1964. 6. 2), 同 (石渡 宏, 1966. 9. 15 YCM), 同 (西山清治, 1966. 9. 18 YCM)。

伊豆湯河原泉 (大谷 茂, 1960. 6. 29 YCM)。

オオヒメワラビは明治初年大久保三郎氏が羽前山寺で, また牧野富太郎先生が土佐の名野川, 手筈山および武蔵秩父で採ったものがタイプであって, 本州, 四国, 九州に広く分布しているものである。

オオヒメワラビの母種オオヒメワラビモドキは佐渡, 駿河以西の暖帯の谷に多く分布するもので, 関東にはオオヒメワラビモドキの典型的のものは見られない。

オオヒメワラビを杉本順一氏は *Lunathyrium okuboanum* (MAKINO) SUGIMOTO と独立種にしているが, 野外で生時ははっきりと区別ができるといっても, その中間型もまた多く見られ連続する傾向も認められるので, 変種説を採用することが妥当であるとおもわれる。

[162] *Lunathyrium viridifrons* (MAKINO) KURATA ミドリワラビ (牧野 1889) H(d) D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

箱根: 台岳 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957. 8. 14), 同 (大谷 茂, 1958. 8. 12 YCM)。

#### Matteuccia Todaro クサソテツ属

[163] *Matteuccia orientaris* (HOOK.) TREVIRANUS イヌガンソク (田中, 1871) Ch(d)(r) D<sub>1</sub>R<sub>3</sub> (Fig. 7)

川崎: 登戸 (武蔵登戸付近植物目録, 1932), 向ヶ丘 (長谷川義人, 1956. 4. 12 YCM)。

横浜: 横浜付近 (Maximowicz, Enum. Pl. Jap. 1879), 港北区 (旧, 都筑郡) 中山 (府川勝蔵, 1933. 5. 14), 鶴見区三ツ池付近 (鶴見高等学校生物部, 1950), 南区弘明寺 (長谷川義人, 1955. 12. 18 YCM 実業), 保土ヶ谷区帷子川流域 (出口長男, 1952), 戸塚区戸塚 (村上司郎, 1963. 8. 5)。

三浦: 横須賀 (Savatier, No. 1561, Enum. Pl. Jap. 1879), 横須賀市阿部倉 (小板 橋, 1966. 6. 17 YCM), 三浦市南下浦毘沙門 (大谷 茂, 1953. 6. 28 YCM), 三浦郡葉山町長柄 (大谷 茂, 1953. 5. 17 YCM), 逗子市神武寺 (大谷 茂, 1955. 4. 24 YCM)。

平塚市高根 (守矢淳一, 1956. 8. 31)。

大磯: 高麗山 (守矢淳一, 1952. 11. 16; 1966. 8. 6)。

丹沢: 札掛 (倉田 悟, 1956), ヤビツ峠 (大場秀章, 1962), 玄倉 (大場秀章, 1962. 8. 24 YCM)。  
山北: 大野山 (大谷 茂, 1957. 10. 27 YCM)。

箱根: 湯ノ花沢~神山 (伊藤和貴, 1913), 元箱根 (箱根植物, 1913), 神山 (守矢淳一, 1965. 7. 29)。

この種は温帯, 暖帯の林下に普通見られるもので, 本県においても上記標本産地以外にも自生するものである。

[164] *Matteuccia orientalis* (HOOK.) TREV.form. *incisa* (CHRIST) OKUYAMA ハゴロモイヌガンソク (田川, 1952) Ch(d)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

丹沢: ユーシン〜玄倉 (大場秀章, 1962. 8. 24 YCM) (神奈川県新産)。

この品種は始め鶴町猷氏が常陸の花川村で採ったもので、裸葉羽片が大形で深く切れ、鎌形に曲った裂片がついたものである。イヌガンソクには時に裸葉が実葉のできそこないかのように裂片が非常に細長くなったものがあるが、この品種とは違うものである。

[165] *Matteuccia Struthiopteris* TODARO クサソテツ (田中, 1871) Ch(d)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3(1)</sub>

川崎: 登戸 (武蔵登戸付近植物目録, 1932)。

横浜: 帷子川流域, 上川井・下川井 (出口長男, 1952. 11. 14 YCM, 上川井の標本)。

鎌倉: 円覚寺 (大谷 茂, 1954. 7. 22 YCM), , 今泉山付近の谷に群生 (大谷 茂, 1963. 3. 28 YCM)。

三浦: 横須賀市, 田浦温泉谷戸 (大谷 茂, 1954. 8. 5 YCM; 同, 1962. 6. 24 YCM)。

平塚: 平塚市吉沢 (守矢淳一, 1965. 8. 4)。

足柄下郡: 橋町中村原 (田代信二, 1958. 8. 30 YCM)。

愛甲郡: 清川村土山峠 (逸見 操, 1956. 10. 10 YCM), 清川村 (逸見 操, 1957. 8. 27 YCM)。

大山 (村上司郎, 1960. 6. 26)。

丹沢: 姫次・ヤビツ峠〜札掛・ユーシン・世附 (林 弥栄, 外3氏, 丹沢山塊の植物調査報告, 1961)。

箱根: 元箱根その他 (箱根植物, 1913), 箱根 (府川勝蔵, 1933. 10. 15, Det. 牧野富太郎), 金時山 (小田原羊歯植物研究グループ, 1957), 狩川上流 (守矢淳一, 1965. 9. 12)。

クサソテツは北海道から九州まで分布し、ニワソテツ、ガンソクの別名もあり、またコゴミの方言名もある。広く北半球の温帯から亜寒帯にわたって見られるもので英名 Ostrich-Fern で知られている。

## Onoclea Linn. コウヤワラビ属

[166] *Onoclea sensibilis* LINNAEUSvar. *interrupta* MAXIMOWICZ コウヤワラビ (田中, 1871) H(d)D<sub>1</sub>R<sub>1</sub>

川崎: (武蔵登戸付近植物目録, 1932)。

横浜: 帷子川流域 (出口長男, 1952), 間門 (斎藤照一, 1957. 7. 15 YCM), 六浦 (村上司郎, 1957), 戸塚 (村上司郎, 1963)。

三浦: 横須賀 (Savatier, No. 1562, Enum. Pl. Jap. 1879), 横須賀市北下浦武山, 浅間山通称三浦富士 (小板橋八千代, 1966. 5. 31 YCM), 三浦初声町三戸 (小板橋, 1967. 7. 30 YCM, 裸葉), 同市南下浦町江奈湾沿岸 (大谷 茂, 1966. 10. 22 調査確認), 葉山町長柄 (大谷 茂, 1949 YCM), 同町二子山谷 (大谷 茂, 1950 YCM), 逗子市桜山 (大谷 茂, 1955. 8. 21 YCM), 同市神武寺 (大谷 茂, 1956. 3. 11 YCM 実葉; 1957. 8. 15 YCM), 同市池子 (大谷 茂, 1957. 9. 1 YCM)。

鎌倉: 大覚池畔 (大谷 茂, 1960. 9. 18 YCM)。

平塚: 馬入 (守矢淳一, 1952. 10. 22; 1954. 10. 1)。

大山: 相模大山 (村上司郎, 1960. 6. 26)。



丹沢：ユーシン・世附・玄倉（林 弥栄外 3 氏，丹沢山塊の植物調査報告，1961）。

足柄下郡：橋町中村原（田代信二，1958. 8. 30 YCM）。

箱根：湯本（箱根植物，1913），仙石原（大谷 茂，1962. 8. 16 YCM），上湯（守矢淳一，1965. 8. 13）。

コウヤワラビはゼンマイワラビの別名もあり北海道から九州（稀）まで広く見られ，亜寒帯から暖帯にかけておもにアジアの東部に分布するものである。

### Polystichum Roth イノデ属

[167] *Polystichum* × *anceps* KURATA (*P. longifrons* × *P. poliblepharum*) ドウリョウイノデ（飯田 和，1959）Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

大磯：高麗山（守矢淳一，1966. 10. 23）。

足柄上郡：道了尊（田倉 悟，1956. 11 —the type in Herb. Fac. Agr. Univ. Tokyo）；同（飯田 和，1959. 6）。

箱根：畑宿（倉田 悟，No. 176，1954. 5）；同（乙益正隆，1962. 1. 15 YCM）；同（守矢淳一，1968. 1. 15 YCM）；須雲川（守矢淳一，1968. 1. 15）。

湯河原（倉田 悟・田代信二・飯田 和，1959. 7）；奥湯河原（大谷 茂，1961. 12. 20 YCM）；同天照山谷（石渡 宏，1966. 5- 3 YCM）。

ドウリョウイノデは古くは 1950 年に瀬戸 剛（大阪市立自然科学博物館）氏が河内高安山麓で採取されたものがあるが，倉田先生が発表されたタイプ標本は相模の道了山の採品である。現在のところ越後，武蔵，相模，伊豆，駿河，三河，河内，摂津および九州の肥後，日向に知られている。九州にはアイアスカイノデは少ないが，アイアスカイノデのあるところには必ずといってよいほどドウリョウイノデがでる。三浦半島でもまだ明らかに確認できないが，その出現の可能性は多分にある。

[168] *Polystichum craspedosorum* (MAXIM.) DIELS ツルデンダ（田中，1871）E(e)ErD<sub>1</sub>R<sub>4</sub>

横浜：金沢区朝比奈（村上司郎・野間俊之，1958. 7. 24）。

三浦：横須賀市，大楠山（稲毛ひさ所蔵標本，採集者不明，1932. 6. 20）；同，前田川上流釜尻谷水源付近（大谷 茂，1951. 12. 8 YCM；1954. 1. 8 YCM）；同，衣笠城趾大谷戸川支谷（大谷 茂，1954. 2. 15 確認）；同，平作カニヤ台，通称砲台山洞窟，防空壕趾？（渡辺次雄，1963. 11. 28—12. 4，2 点 YCM）；逗子市，神武寺（大谷 茂，1949. 5. 10 YCM；1953. 4. 26 YCM）。

鎌倉：今泉不動（石渡 宏，1960. 5. 5. YCM；大谷 茂，1963. 3. 28 YCM），散在ヶ池（石渡 宏 1960. 10. 23 YCM），同（大谷 茂，1969. 3. 11 確認）。

大山：相模大山（府川勝蔵，1933. 10. 22；村上司郎，1960. 6. 26），二重滝（田代信二・飯田 和・西尾和子，1957）。

丹沢：水無川溪谷（大谷 茂，1952. 8. 25 YCM），塩川滝（大谷 茂，1955. 8. 2 YCM；逸見操，1956. 6. 26 YCM），玄倉川（大谷 茂，1955. 8. 11 YCM），ユーシン（秋山 守，1955. 7. 27），札掛（倉田 悟，1956），山神峠（田代・飯田・西尾，1957. 7. 31），箒沢（秋山 守，1958. 5. 3；大谷 茂，1963. 5. 5 YCM），西沢（田代・飯田・西尾，1958. 8. 18），西丹沢，浅瀬オット沢（田代・西尾，1959. 8. 27），同，石堂沢～東沢（田代・西尾，1959. 8. 29），檜洞沢（秋山 守，1958. 9. 23），タライゴヤ沢（西田 誠・栗田子郎・大場秀章，1962. 8. 22）。

山北：酒水滝（伊藤和貴，1913，箱根植物）。

箱根：木賀（箱根植物，1913），金時山（守矢淳一，1951. 8. 7；小田原研究グループ，1957），畑宿（大谷 茂，1963. 8. 17 YCM）。

ツルデンドは温帯～暖帯に分布するもので *Aspidium craspedosorum* MAXIM. (1871) の Type sp. は箱根山産のものである。

[169] *Polystichum fibrilloso-paleaceum* (KODAMA) TAGAWA アスカイノデ（伊藤圭介 ex 児玉，1915）Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

横浜：保土ヶ谷区；帷子川流域上川井（出口長男，1952；村上司郎，1964. 11. 28），同；仏向（大谷 茂，1952. 9. 7 YCM），磯子区峰（長谷川義人，1956. 11 YCM），金沢区朝比奈（村上司郎・野間俊之，1957. 12. 28），戸塚（村上司郎，1965. 8）。

三浦：横須賀（採集者？ 1880. 11. 24. TI, Lectotype），横須賀市田浦（大谷 茂，1959. 10. 23 YCM；斎藤照一，1960. 7. 25 YCM；長谷川義人，1965. 3. 28 YCM；大谷 茂，1966. 11. 3 YCM），同市大楠山（大谷 茂，1960. 6. 26 YCM），同市米ヶ浜（小板橋八千代，1965. 1. 26 YCM），同市阿部倉（小板橋，1965. 12. 27 YCM），横須賀市内には上記標本産地のほか馬堀本館自然教育園，浦賀明神山，武山など各地に豊富に自生するのを著者は確認している，葉山長柄奥大山谷（大谷 茂，1959. 11. 22 YCM），逗子市神武寺（守矢淳一，1949. 11. 20；大谷 茂，1959. 8. 31 YCM）。

鎌倉：鎌倉（府川勝藏，1934. 9. 23, Det. 牧野富太郎）。

津久井郡城山町畑久保（守矢淳一，1967. 8. 1，大谷 茂確認1968. 9. 18）。

丹沢：箒沢（秋山 守，1959. 11. 21），中ノ沢（秋山 守，1960. 9. 23），札掛タライゴヤ沢，中流 alt. 800 m スギ林（西田 誠・栗田子郎・大場秀章，1962. 8. 22 YCM）。

道了山（守矢淳一，1963. 11. 11；大谷 茂，1964. 12. 29 YCM）。

小田原市十字森林公園（飯田 和，1957. 6. 18 YCM）。

箱根：畑宿（松浦茂寿・朝倉修一，1952）。

真鶴（守矢淳一，1957. 11. 10；大場秀章，1960. 5. 30 YCM；逸見 操，1961. 9. 17 YCM）。

アスカイノデは近海の林下に多いシダで，本州では陸前の樺島以南から太平洋岸，外帯を伊勢まで見られ，四国の高知市および伊豆諸島の各島に分布している。

横須賀を中心に三浦半島にはイノデ類中とくに多いものである。

アスカイノデの和名は伊藤圭介氏が東京飛鳥山で明治初年に採取（TI）した標本にもとづいて命名されたが，それは今日アイアスカイノデの名で呼ばれているものである。

学名は児玉親輔氏が *Polystichum aculeatum* SCHOTT var. *fibrilloso-paleaceum* KODAMA in Bot. Mag. Tokyo 29 : 327 (1915) と新変種名を手記されている。これは児玉氏が東京目黒火薬庫で 1915 年 7 月採取されたのものにもとづいているが，これも今日いうアイアスカイノデである。

ところで児玉氏がアスカイノデの産地としてあげられた中，倉田悟先生の検した報告をみると，目黒火薬庫および飛鳥山（二枚の中一枚）産はアイアスカイノデで，伊豆大島（数枚），横須賀，飛鳥山（他の一枚）および上総軍荼利山産のものは今日いうアスカイノデであるということである。

前にはアスカもアイアスカも区別しないで一緒にしてアスカイノデとしていたのである。飛鳥山や東京付近でもアスカの方が多かったにしろ両種があったわけである。

児玉親輔氏もその当時すでにアスカイノデに 2 型あることを認められ，しかも今日いうアスカイノデの型を典型的なものとして認めている。



児玉氏の *Type sp.* は今日いうアイアスカイノデではあるが、上の事情から児玉氏の学名はアスカイノデの正名として残し、横須賀産 (採集者?, 1880. 11. 24 TI) を選定基準標本 (*Lectotype*) とすれば万事好都合であると倉田先生はのべておられる。

アスカイノデは今日独立種として異存はないようであるが、アイアスカは明らかに独立種としてもアスカはイノデの変種名にもどすことが適当ではないかと多少著者の考え方は傾いてきている。

[170] *Polystichum* × *hakonense* KURATA (*P. longifrons* × *P. pseudo-Makinoi*) ハコネイノデ (倉田, 1961) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub> (Fig. 9)

箱根: 須雲川 (飯田 和, 1957; 田代信二, 1958; 倉田 悟, 1958; 同, 1959. 7. 26—No. 928 *Type—ToFo*; 同, 1961; 田代信二, 1959. 6. 1; 乙益正隆, 1962. 1. 15 YCM; 大谷 茂, 1964. 5. 5 YCM; 守矢淳一, 1968. 6. 30 YCM), 畑宿 (飯田 和, 1961. 8. 4 YCM; 大谷 茂, 1962. 1. 15 YCM; 同, 1964. 5. 5 YCM)。

上記のように標本産地が須雲川と畑宿になっているが、二つの地点ではなく畑宿地域の須雲川べりの谷と神社の竹藪付近のことで、これらのところには多く見られ、ある地点では小範囲ながら群生しているところがある。

[171] *Polystichum igaense* TAGAWA チャボイノデ (黒川・砂子 ex 田川, 1953) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

大山: 不動尊付近 (久内清孝, 1932, TI, NSM); 同 (大谷 茂, 1951. 8. 7 YCM); 二重滝付近 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957); 大山追分~二重滝 (守矢淳一, 1967. 10. 15)。

丹沢: 札掛 (倉田 悟, 1956); 同 (府川勝蔵, 1958. 5. 19); 同 (遠藤将光, 1958. 8. 2 YCM), 一の沢考証林 (大谷 茂, 1962. 5. 20 YCM), 白石沢 (田代・飯田・西尾, 1958), 二本杉峠 (秋山守, 1958. 8. 20)。

山北: 酒水滝 (石渡 宏, 1962. 1. 14 YCM)。

チャボイノデは 1950 年に黒川喬雄・砂子剛の両氏が伊賀の阿波村で採ったものが、*type* であるので、伊賀国が *type locality* であるが、むしろ関東南部から東海地方に多いシダで本県でも丹沢山塊を中心に多く見られ、そう珍らしいものではない。

出口長男氏は横浜市保土ヶ谷区の上川井のスギ林下に 13 株散生したが、1958 年頃伐木のため、環境一変して全滅、惜しまれる一品として報告 (1968) されているが、疑問の点が多い。出口氏以外にここで採取したものもなく、著者も確認していない。その当時の標本も見ることができないので、自生の可能性はまぎらうすいと見るべきであろう。出口氏自身もその報文にチャボイアデかどうか◎符をつけている。

チャボイノデは葉面の細長い小形のシダで羽片の先がちぎったように急に頂片となる。葉柄や葉軸の鱗片が硬くて乾くとねじれる。そういう特長をよく見れば誤認することはないであろう。

[172] *Polystichum* × *lidanum* KURATA (*P. longifrons* × *P. Maxinoi*) アイカタイノデ (倉田, 1960) Ch(e)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

小田原十字 (飯田 和, 1959. 12. 27 YCM)。

湯河原 (脇田園輝・飯田 和, 1958. 8, *type TOFO*); 同, (乙益正隆, 1961. 11)。

- [173] *Polystichum* × *Inadae* KURATA (*P. polyblepharum* × *P. retroso-paleaceum* or *P. ovato-paleaceum*) フナコシイノデ (倉田, 1960) Ch(e)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

奥湯河原 (脇田暉輝, 1961)。

伊豆湯河原 (脇田, 1960); 同 (飯田 和, 1960. 12. 25 YCM); 同 (倉田 悟, 1961)。

上記産地のうち本県隣接地である伊豆湯河原泉地区では著者も確認しているが、脇田暉輝氏の採取されたという奥湯河原では著者はまだ確認していない。はたして本県側にフナコシイノデが存在するであろうか。

- [174] *Polystichum* × *Izuense* KURATA (*P. Makinoi* × *P. Tagawanum*) カタイノデモドキ (倉田, 1958) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

箱根: 畑宿 (飯田 和, 1957)。

奥湯河原 (田代信二, 1959. 11. 3); 同, 天照山下 (朝倉修一, 1965. 10. 3 YCM)。

- [175] *Polystichum* × *Kurokawae* TAGAWA (*P. Makinoi* × *P. Ovato-paleaceum*) アカメイノデ (黒川 ex 田川, 1949) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

箱根: 畑宿 (倉田 悟, 1954. 5. 9); 同 (府川勝蔵, 1954. 6. 20, Det. KURATA); 同 (松岡輝宏, 1962)。

アカメイノデは黒川喬雄氏が、伊賀の赤目で発見したもので、これはまたイノデ類雑種中で最初に知られたものである。

- [176] *Polystichum lepidocaulon* (HOOK.) J. SMITH. オリズルンダ (田中, 1871) Ch(e)D<sub>1</sub>R<sub>4</sub>

横浜: 金沢区朝比奈 (村上司郎・野間俊之, 1958. 6. 15); 出口長男氏は横浜南東部地域の樹林下、谷側に散生するが極めて稀であると報告しているが、産地をあげていないし、標本も見られず著者は確認していない。

三浦: 横須賀市, 阿部倉 (大谷 茂, 1953. 12. 6 YCM); 衣笠 (大谷 茂, 1954. 2. 6 YCM); 平作山田谷戸 (大谷, 茂, 1954. 4. 2 YCM); 観音崎 (斎藤照一, 1959. 10. 15 YCM; 同, 1960. 6. 10 YCM; 小板橋八千代, 1966. 8. 28 YCM), 横須賀地域ではこの他に大谷戸川, 深山川, 前田川上流釜尻谷および猿島などで著者は確認している。

葉山町木古庭 (大谷 茂, 1953. 12. 28 YCM), 木古庭不動滝谷戸 (小板橋, 1966. 3. 12 YCM), この他下山川上流のヤナンサク谷, ウマノセ谷などに著者は確認している (1953)。

逗子市神武寺 (府川勝蔵, 1934. 6. 10; 大谷 茂, 1949. 10. 30 YCM; 同, 1953. 7. 28 YCM; 同, 1953. 12. 28 YCM; 同, 1956. 7. 24 YCM; 同, 1959. 9. 20 YCM; 守矢淳一, 1949. 11. 20; 長谷川義人, 1951. 5. 13 YCM; 同, 1956. 1. 2 YCM; 村上司郎, 1961. 11. 3.), 本羊歯は神奈川県下では、この三浦半島地域に豊産する。

鎌倉や江の島にも古く報告されていたが、現在江の島に残っているかどうか最近著者は確認していない。

小田原: 田島 (野地芳二・陣野一郎, 1961. 8, 飯田 和確認 1961. 11)。



箱根湯本に報告あるも絶滅したらしい。

- [177] *Polystichum longifrons* KURATA アイアスカイノデ (橋本忠太郎, 1938) Ch(e)(r) D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

横浜: 磯子区円海山 (長谷川義人, 1956. 2. 24 YCM)。

三浦: 横須賀市田浦温泉谷戸 (大谷 茂, 1959. 10. 23 YCM; 同, 1962. 6. 24 YCM; 同, 1964. 6. 10 YCM; 同, 1966. 11. 3 YCM)。

葉山町二子山谷 (倉田 悟, 1951; 大谷 茂, 1955. 11. 6 YCM; 靱山泰一, 1966)。

大磯高麗山 (本田正次, 1925 TI; 守矢淳一, 1966. 8. 10. YCM)。

厚木市上愛甲 (守矢淳一, 1954. 1. 2; 同, 1963. 1. 2 YCM), 同市七沢 Narasawa (逸見 操, 1957. 10. 20 YCM)。

大山 (佐藤達夫, 1925 TI; 守矢淳一, 1967. 10. 15), 同二重滝付近 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957)。

丹沢 (倉田 悟, 1956), 同, 箒沢 (飯田 和, 1959; 秋山 守, 1959. 11. 21 YCM), 同, 小川谷 (秋山 守, 1960. 9. 23)。

箱根: 須雲川 (倉田 悟, 1954); 同 (大谷 茂, 1964. 5. 5 YCM); 同 (守矢淳一, 1968. 6. 30), 畑宿 (府川勝蔵, 1954. 6. 20 Det. KURATA); 同 (飯田 和, 1959. 7. 5 YCM)。

奥湯河原 (西山清治, 1966. 9. 18 YCM)。

アイアスカイノデのここにあげた学名のタイプは渡嘉敷 裕氏が 1956 年 6 月武蔵の恩方村下小田野で採ったものである。

- [178] *Polystichum Makinoi* (TAGAWA) TAGAWA カタイノデ (牧野, 1922) (オトコイノデ, 牧野, 1922) Ch(e)(r) D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

丹沢中ノ沢 (秋山 守, 1964. 3. 31 YCM)。

奥湯河原 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957); 同 (長谷川義人, 1957. 11. 10 YCM); (大谷 茂, 1958. 11. 23 YCM); 同, 1961. 12. 26 YCM); 同 (飯田 和, 1960. 6. 12 YCM); 同 (守矢淳一, 1963. 9. 24); 同 (村上司郎, 1964. 6. 2); 同 (西山清治, 1965. 4. 3); 同 (石渡 宏, 1966. 5. 3 YCM)。

カタイノデは通常やや小形のシダで上記標本産地のほか, 津久井郡美女谷 (標本は戦災で消失) や丹沢山塊の玄倉・長者舎・ユーン・檜洞などで, また箱根畑宿 (標本は戦災で消失) などで著者は確認している。

- [179] *Polystichum* × *Mashikoi* KURATA (*P. polyblepharum* × *P. Tagawanum*) アマギイノデ (倉田, 1958) Ch(e)(r) D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

箱根: 畑宿 (倉田 悟・田代信二・飯田 和, 1958); 同 (守矢淳一, 1968. 1. 15 YCM)。

奥湯河原 (田代信二, 1959. 11. 3), 同 (飯田 和, 1961. 7. 2 YCM)。

伊豆湯河原 (田代信二・飯田 和・西尾和子・脇田暲輝, 1959)。

アマギイノデは奥湯河原には割合に多く見られ付近にはオニヒカゲワラビも見られた。

上記標本産地の箱根畑宿産のものは, アマギイノデの一型品でイノデモドキとアイアスカイノデ

との中間型を思わせるもので、倉田先生は一応ハタジクイノデと仮称されているものである。しかしアスカイノデかイノデであるかは、なかなか困難であってアマギイノデとの区別はむずかしいと倉田先生ものべていられる。したがって広く言ってアマギイノデでよいかと思う。

アマギイノデのタイプは伊豆賀茂郡上河津村沼ノ川諸坪経路で 1957 年 10 月に倉田 悟先生が採取された (No. 1525) ものである。しかしこのシダに注目されたきっかけをつくったのは同地で同年に益子 進氏が採取し倉田先生に同定を求めた標本からである。

[180] *Polystichum* × *miuranum* KURATA (*P. fibrilloso-paleaceum* × *P. polyblepharum*)  
ミウライノデ (倉田 in 杉本: 日本草本植物総検索誌シダ篇, 1966) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub> (Fig. 1, 2, 3)

三浦: 横須賀市武山浅間山俗称三浦富士 (倉田 悟, 1964. 5-type No. 198, TOFO, このとき著者も同行した), 同, (大谷 茂, 1968. 6. 9 YCM, タイプの株より採る), 同市田浦温泉谷戸 (大谷 茂, 1964. 6. 10 YCM; 同, 1966. 11. 3 YCM), 同, (志村義雄, 1967)。

津久井郡城山町畑久保 (守矢淳一, 1967. 8. 1 YCM)。

小田原市: 城趾 (倉田 悟, 1965), これは始め北条イノデと仮称したものである。

三浦半島には本雑種は非常に多く、アスカイノデとイノデの混生地にはどこでも見られるものである。

[181] *Polystichum* × *Namegatae* KURATA (*P. Makinoi* × *P. pseudo-Makinoi*) ミツイシイノデ (倉田, 1956) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

丹沢: 檜洞丸 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957. 8. 1), 小川 谷 (秋山 守, 1964. 3. 31)。箱根: 須雲川 (倉田 悟, 1954. 6. 20, 府川勝蔵氏所蔵), 畑宿 (大谷 茂, 1957. 8. 31 YCM)。奥湯河原 (脇田罔輝, 1958)。

[182] *Polystichum neo-lobatum* NAKAI ヤシヤイノデ (田川, 1940) (イナイノデ, 中井 ex 倉田, 1956) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub> (Fig. 8)

丹沢: 西丹沢, 西沢 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1958. 8. 18 YCM, 田代氏採品と飯田氏採品の 2 点); 同, (佐宗 守, 1959. 11. 23 YCM; 同, 1960. 7. 21; 同, 1962. 3. 24 YCM); 同 (朝倉修一, 1962. 5. 6 YCM); 同 (大谷 茂, 1963. 5. 5 YCM)。

同, 石堂沢~東沢 (田代信二, 1959. 2. 7 確認); 同 (田代・西尾, 1959. 8. 29); 同 (田代・飯田・西尾, 1959. 11. 23)。

同, 大滝沢 (田代・飯田・西尾, 1959. 11. 22)。

ヤシヤイノデ (台湾産のものでつけられた名) は我が国のオニイノデに最も近い種で, 台湾, 中国 (陝西・雲南・四川・湖北・浙江), チベット, ネパールに分布する支那大陸系のシダであって, この珍羊歯が日本に発見されたのは近年のことである。

当時このシダの話題を提供したのは林 弥栄博士であって, 同氏は 1950 年 10 月, 30 日信州下伊那郡赤石山塊の遠山川上流北又沢神ノ石付近森林沿いの石灰岩壁に, これを採集 (裸葉のみ) された (NSM)。中井猛之進博士はこれを新種としイナイノデ *Polistichum calcicola* NAKAI の名を用意されたが記載発表にいたらなかった。



ところがすでに村松光喜氏は 1918 年 7 月と 1950 年 5 月に本種を採集しておいた (NSM)。

その後、倉田 悟先生は 1955 年 9 月遠山川に入り前記神ノ石の岩山 (alt. 1100 m) で典型品を採集され、支那大陸産や台湾産 (台中州の高地 alt. 3300 m) のものと一致するという見解を発表されたのである (1956)。

西丹沢はヤンシャイノデの日本における第二の産地であるが、その発見の経過について著者の報告 (1960) に誤りがあるので、ここにその当時のことを改めて記録しておく。

(1) 田代信二・飯田 和・西尾和子の三氏は昭和 33 (1958) 年 8 月 18 日、西丹沢箒沢を本拠として付近の羊歯植物の調査をされた。中川川の上流、西沢の谷を溯江して、大瀬の滝をすぎ標高約 700 m の付近、石英閃緑岩地帯についてヤンシャイノデを発見した。その付近に 11 株を確認し、さらに上流地帯に散見自生していることを確認したのである。

(2) 田代信二氏は昭和 34 (1959) 年 2 月 7 日、箒沢ザレの沢に岩石鉱物採集の目的で田代氏の昔の教え子で、当時山北町三保支所長の佐藤幹之氏の家泊ったとき、ヤンシャイノデらしいものが、家の所有地、東沢にあるから見てほしいと乞われた。田代氏は岩石採集の帰途、佐藤氏の案内で石堂沢から東沢に入り、ヤンシャイノデであることを確認したのである。

(3) 昭和 34 (1959) 年 8 月 29 日、再び佐藤氏の案内で田代・西尾の両氏は石堂沢を迂廻して東沢に行き、ヤンシャイノデを確認している。

(4) 昭和 34 (1959) 年 11 月 22 日、佐藤氏の案内で田代・飯田・西尾の三氏が、畦丸山採集の折、その帰路、大滝沢でヤンシャイノデを発見している。

(5) 昭和 34 (1959) 年 11 月 23 日、田代・飯田・西尾の三氏が西丹沢採集の際、田代氏の確認した東沢の現地に飯田・西尾両氏を田代氏は案内している。このときは佐藤氏は同行しなかった。

日本のシダ類中、極めて珍奇な種類、その怪異な姿、その勇姿ヤンシャイノデが信州遠山川上流神ノ石に次いで、本県の西丹沢に発見されたことは、当時の一大ニュースとして高く評価されたのである。

[183] *Polystichum* × *Ohtanii* KURATA (*P. fibrilloso-paleaceum* × *P. longifrons*) オオタニノデ (倉田 ih 杉本: 日本草本植物総検索誌シダ篇, 1966) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub> (Fig. 4, 5, 6)

三浦: 横須賀市田浦温泉谷戸 (倉田 悟・行方沼東・大谷 茂, 1964. 6. 10—倉田先生 1 株持参移植, type No. 238 TOFO), 同 (大谷 茂, 1966. 11. 3 YCM), 同 (大谷 茂, 1968. 6. 9—type の株より採ったもの—YCM), 同, 葉山町二子山 (倉田 悟, 1951)。

前記ミウライノデとともに三浦半島には割合多く見られるもので、すでに 1964 年以来注目され同好者間に親しまれてきたシダである。

ミウライノデの Sorus はすぐはじけるが、胞子ができないので、こぼれない。オオタニノデの Sorus は包膜がとれても、はじけないで、包膜時の形のままで、きれいに残る。

[184] *Polystichum* × *Okanum* KURATA (*P. retroso-paleaceum* × *P. Tagawanum*) ナメライノデ (倉田, 1959) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

丹沢: 西丹沢水ノ木沢 (田代信二・西尾和子, 1959. 8. 28)。

ナメライノデは水ノ木沢が神奈川県新産である。西丹沢世附の奥、浅瀬の営林署の事業所 (標高 600 m) より水ノ木沢入口付近でこのシダを採取し倉田 悟先生の同定を得て本雑種であることが

わかったものである。

ナメライノデはイノデモドキとサカゲイノデとの雑種であるが、サカゲイノデにかわってツヤナシノデの場合もありうるのであって、以前はこれをツヤナシノデモドキといったこともある。

前記水ノ木沢はほとんどがツヤナシノデであるところから、水ノ木のナメライノデはイノデモドキとツヤナシノデとの雑種といえることができる。

前記標本を倉田先生から見せていただいたが、あまりよい標本ではなかった。

[185] *Polystichum* × *ongataense* KURATA (*P. ovato-paleaceum* × *P. pseudo-Makinoides*)  
オンガタイノデ (倉田, 1956) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

箱根: 畑宿 (倉田 悟, 1954; 同, 1954. 6. 20, 府川勝蔵氏所蔵品); 同 (大谷 茂, 1954. 6. 10 YCM); 元箱根 (小田原羊歯研究グループ, 1957. 8. 18); 同 (飯田 和, 1959. 6. 7 YCM)。

オンガタイノデのタイプは、武蔵南多摩郡恩方村駒木野の谷で倉田先生が1955年6月採取 (No. 341) されたものによる。

[186] *Polystichum ovato-paleaceum* (KODAMA) KURATA ツヤナシノデ 田中, 1871)  
Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

横浜: 帷子川流域, 上川井 (4 株)・下川井 (2 株)・笹野台 (2 株), (出口長男, 1952. 10. 15, 上川井産, YCM), 笹野台は宅地造成のため現在絶滅した。

大山: 二重滝付近 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957)。

丹沢: 札掛 (倉田 悟, 1956); 同, 一ノ沢 (大谷 茂, 1962. 5. 20 YCM); 同, タライゴヤ沢 (西田 誠・栗田子郎・大場秀章, 1962. 8. 12), 西丹沢西沢 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1958); 同 (飯田 和, 1958. 8. 18 YCM); 同, 東沢 (田代・西尾, 1959. 8. 29); 同, 浅瀬オット峠付近 (田代・西尾, 1959. 8. 28)。

箱根: 箱根峠十二町坂 (松野重太郎, 1913), 二子山 (伊藤和貴, 19913), 宮城野 (箱根植物目録, 1913), 箱根神社裏 (守矢淳一, 1952. 11. 7), 駒ヶ岳 (守矢淳一, 1952. 11. 7), 二子山・台岳・早川上流 (小田原羊歯研究グループ, 1957), 須雲川 (大谷 茂, 1958. 11. 23 YCM), 狩川上流 (守矢淳一, 1965. 9. 12)。

[187] *Polystichum polyblepharum* (ROEMER ex KUNZE) PRESL イノデ (田中, 1871)  
Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

川崎: 登戸 (武蔵登戸付近植物目録, 1932)。

横浜: 鶴見三ツ池付近 (鶴見高等学校生物部, 1950), 帷子川流域 (出口長男, 1952), 金沢区六浦 (村上司郎, 1955), 南区弘明寺 (長谷川義人, 1955. 12. 16 YCM; 同, 1955. 12. 18 YCM), 同区永田 (長谷川義人, 1955. 12. 24 YCM), 磯子区峰 (長谷川義人, 1956. 11 YCM), 戸塚 (村上司郎, 1963. 8)。

三浦: 横須賀市田浦 (大谷 茂, 1959. 10. 23 YCM), 同市田浦温泉谷戸 (大谷 茂, 1964. 6. 10 YCM; 同, 1965 YCM), 同市衣笠山 (大谷 茂, 1962. 2. 17 YCM), 同市阿部倉 (小板橋八千代, 1965. 12. 27 YCM), 同市西逸見 (小板橋, 1966. 1. 11 YCM), 同市大楠山 (小板橋, 1966. 3. 6 YCM 嫩葉)。



葉山町木古庭 (西山清治, 1962. 2. 15 YCM), 同町一色 (大谷 茂, 1962. 11. 2 YCM), 同町二子山 (大谷 茂, 1954. 8. 5 YCM; 同, 1955 YCM, 2 点; 同, 1957 YCM)。

逗子市神武寺 (長谷川義人, 1951. 5. 13 YCM), 同 (石渡治一, 1951. 8. 7 YCM), 同 (大谷 茂, 1955. 12. 4 YCM; 同, 1956 YCM; 同, 1959. YCM, 2 点), 同市桜山 (大谷 茂, 1953. 6. 5 YCM; 同, 1955 YCM; 同, 1958 YCM)。

鎌倉: 今泉山 (府川勝蔵, 1934. 10, Det. 牧野富太郎, 1937. 2. 27), 散在ヶ池 (大谷 茂, 1960. 8. 16 YCM), 天園 (大谷 茂, 1960. 11. 18 YCM)。

大磯: 高麗山 (守矢淳一, 1956. 12. 2; 1966. 8. 6)。

大山 (逸見 操, 1957. 4. 17 YCM; 同, 1958 YCM), 同 (村上司郎, 1960. 6. 26)。

丹沢: 札掛 (倉田 悟, 1956), 中津溪谷 (逸見 操, 1956. 11. 12 YCM)。

道了山 (大谷 茂, 1964. 12. 29 YCM, 典型品; 同, 1965. 1. 29 YCM)。

箱根: 湯本其他 (箱根植物目録, 1913), 畑宿 (守矢淳一, 1955. 9. 25)。

奥湯河原 (大谷 茂, 1957. 11. 10 YCM; 同, 1961 YCM), 同 (飯田 和, 1959. 7. 12 YCM), 同 (石渡 宏, 1961. 12. 26 YCM; 同, 1966. 5. 3 YCM 奇型品, 小羽片が, さらに分れるもの; 同, 1966. 9. 15 YCM), 同 (西山清治, 1966. 9. 18 YCM), 同, 竹沢 (渡辺次雄, 1964. 12. 13 YCM)。

[188] *Polystichum pseudo-Makinoi* TAGAWA サイゴクイノデ (田川, 1936) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

中郡伊勢原町日向薬師 (西山清治, 1965. 4. 3 YCM)。

大山不動尊付近 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957)。

丹沢: 檜洞 (田代・飯田・西尾, 1957), 小川谷 (秋山 守, 1964. 3. 31)。

箱根: 須雲川 (松浦茂寿・朝倉修一, 1952), 同 (大谷 茂, 1964. 5. 5 YCM), 畑宿 (倉田 悟, 1954. 6. 20, 府川勝蔵所蔵), 同 (守矢淳一, 1955. 9. 25 YCM), 同 (飯田 和, 1958. 8. 23 YCM)。

奥湯河原 (田代・飯田・西尾, 1957)。

サイゴクイノデは以前はカタイノデとされていたもので, 津久井郡美女谷付近でカタイノデといったもののなかには, このサイゴクイノデが相当含まれている。したがって古いカタイノデの標本は再検討する必要がある。

サイゴクイノデのタイプは田川基二博士が 1931 年に大和室生山で採ったものである。

[189] *Polystichum retroso-paleaceum* (KODAMA) TAGAWA サカゲイノデ (児玉, 1915) Ch(d)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

箱根1 畑宿 (田代信二・飯田 和, 若名東一, 1957. 12. 14), 同 (飯田 和, 1958. 9. 3 YCM), 同 (飯田 和, 1961. 11. 29 YCM, 飯田裁品)。

奥湯河原 (陣野一郎, 1962. 1. 3)。

サカゲイノデは温帯性のシダで, 特に裏日本に多いものである。関東地方でも埼玉県あたりに行くとき多く見られる。

[190] *Polystichum rigens* TAGAWA オニイノデ (田川, 1937) Ch(e)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

津久井郡城山頂上付近 (歌川義男, 1955. 9. 18)。

山北：酒水滝（田代信二，1958. 3. 30），同（飯田 和，1958. 5. 10 YCM），同滝の上流（小田原羊歯研究グループ，1958. 5. 19），同（大谷 茂，1958. 6. 21 YCM），同（佐宗 守，1959. 12. 29 YCM），同滝沢川（大谷 茂，1961. 1. 14 YCM），同（守矢淳一，1961. 11. 12），同（大谷 茂，1962. 2. 4 YCM），人遠（田代信二，1958. 7. 13 YCM），同（秋山 守，1959. 12. 28）。

丹沢：札掛～塔ヶ岳（林 弥栄，1955），札掛（倉田 悟，1956），同（秋山 守，1960. 5. 1），札掛丹沢ホーム上部モミ自然林下（大場秀章，1962. 8. 21 YCM），札掛一の沢考証林（大谷 茂，1962. 5. 20 YCM），西沢（飯田 和，1958. 8. 18），ユージン（秋山 守，1959. 7. 26），塩水（秋山 守，1960. 5. 2），中ノ沢（秋山 守，1961. 9. 23）。

道了山（田代信二，1958. 3. 31）。

オニイノデは暖帯性のシダであるが，四国，九州にはまだでない。

[191] *Polystichum Tagawanum* KURATA イノデモドキ（田川，1936）Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

横浜：帷子川流域，上川井（出口長男，1952）。

大山：不動尊下部（田代信二・飯田 和・西尾和子，1957）。

丹沢：札掛（倉田 悟，1956），白石沢（田代・飯田・西尾，1958），篝沢（秋山 守，1959. 11. 21），二本杉峠（同，1958. 8. 20）。

山北酒水滝（石渡 宏，1962. 1. 2 YCM；大谷 茂，1962. 1. 14 YCM）。

道了山（石渡 宏，1964. 12. 29 YCM；大谷 茂，1965. 1. 29 YCM）。

箱根：須雲川（倉田 悟，1954），同（大谷 茂，1961. 12. 15，Det. 倉田，府川勝蔵所蔵），同（大谷 茂，1964. 5. 5 YCM），畑宿（飯田 和，1961. 8. 4 YCM），同（大谷 茂，1963. 8. 17 YCM），同（守矢淳一，1964. 9. 18），二子山（小田原羊歯研究グループ，1957. 8. 18）。

湯河原（飯田 和，1960. 6. 12 YCM），同（飯田 和・佐竹元吉・脇田園輝・陣野一郎，1962. 1. 3），同（西山清治，1965. 4. 3），奥湯河原（西山清治，1966. 9. 18 YCM）。

上記の産地で出口長男氏は横浜上川井のスギ林下で採集している稀産品であると報告しているが，基礎資料としての標本はなく，著者は疑問に思う。

かつて著者も三浦半島二子山で 1955 年 11 月 4 日に採ったものもイノデモドキと思われるとして予報した（1957）ことがあるが，その後の検討によってイノデとしておくことが無理がないという見解をとっている。

イノデモドキは暖帯性のシダで，海岸付近には見られない。佐渡・下野・上総以西，四国，九州大隅半島までに分布している日本特産のシダである。

タイプは木梨延太郎氏が，紀伊高野山で 1922 年に採ったもので，初めサイゴクイノデの変種と見られていたが（田川基二，1939），葉面，ソーラスのつきかた，鱗片などの特徴からサイゴクイノデとは異なるものとして倉田先生は独立種とされた（1958）。

[192] *Polystichum tripterum* (KUNZE) PRESL ジュウモンジシダ（松村，1884）（ジュモクシダ，田中，1871）（ジュウモクシダ，田中，1871）Ch(e)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub> (Fig. 10)

横浜：帷子川流域上川井（出口長男，1952. 11. 14 YCM，上川井には 10 株くらいあったが近年殆んど失われていると出口氏は報告されている，1968），今宿（出口長男，1968，1 株確認），金沢区朝比奈（村上司郎・野間俊之，1958. 4. 6），同区上郷地区には多い（出口長男，1968 確認），戸塚（村上司郎，1963）。



三浦：横須賀市観音崎（大谷 茂，1949. 10. 8 YCM），同（大谷 茂，1951. 8. 5 YCM），同市武山（大谷 茂，1953. 11. 15 YCM），同市衣笠（同，1954. 2. 6 YCM），同市山中（同，1954. 3. 29 YCM），同市平作（同，1954. 4. 2 YCM），大楠山周辺には多い。

葉山町木古庭（大谷 茂，1953. 12. 8 YCM），同町上山口（小板橋八千代，1965. 12. 18 YCM），この地区では二子山谷に多い。

逗子市神武寺（府川勝蔵，1834. 9. 23），同（大谷 茂，1949 YCM；1950 YCM；1952 YCM；1953 YCM；1959. 9. 20 YCM），同（長谷川義人，1951. 5. 13 YCM；1956. 1. 2 YCM），同（石渡治一，1951. 8. 7 YCM），同（逸見 操，1953. 5. 3 YCM），同（守矢淳一，1953. 12. 1），同（斎藤照一，1957. 8. 10 YCM），同（村上司郎，1962. 5. 5）。

大磯高麗山（守矢淳一，1960. 1. 6；1966. 8. 6）。

大山（逸見 操，1958. 11. 9 YCM），同不動尊付近（田代信二・飯田 和・西尾和子，1957）。丹沢：札掛（倉田 悟，1956），ヤビツ峠（斎藤照一，1956. 11. 5 YCM）。

箱根：湯本旧発電所（松野重太郎，1913），早川上流・台岳（小田原羊歯研究グループ，1957），畑宿（守矢淳一，1964. 9. 13）。

湯河原：広河原（大谷 茂，1957. 11. 10 YCM）。

ジュウモンジシダは上記産地のほか各地に普通に見るもので，とくに鎌倉を含めた三浦半島の谷間には多い種である。

[193] *Polystichum tripterum* (KUNZE) PRESL

form. *simplicissimum* (TAGAWA) TAGAWA ヒトツバジュウモンジシダ（田川，1932） Ch(e)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

三浦：横須賀市鷹取町鷹取山麓（檜山庫三，1932. 10. 2），同（石渡 宏，1965. 5. 6 YCM，大谷 茂現地確認）。

葉山町二子山（斎藤照一，1959. 9. 28 YCM）。

逗子市神武寺本堂の崖（村上司郎，1967. 1. 22 YCM）。

ヒトツバジュウモンジシダは葉身の長さ 20 cm 以上で最下羽片短く十文字状でないものである。前記神武寺産のものを移植栽培して見ると新葉は古い葉とは異なった小形の葉で単羽状複生のものがいくつか出てきた。これはジュウモンジシダそのものが瘦せたものとしかおもわれないので，現地でヒトツバ式の型をしていても栽培してみる必要があるのではないかと考える。

ヒトツバジュウモンジシダは竹内 敬氏が丹波国長老嶽で採取されたジュウモンジシダの型に対して田川基二博士が発表（1933）したのが最初である。その後近江国に報告された。さらに出雲国，島根県八束郡来待村，大字上来待，字佐倉の岩屋寺（林 実，昭和8年，（1933）12月28日，No. 2244）に報告された。いずれも関東以西に知られていたが，関東地方で初めて報告されたのは檜山庫三氏で前記の鷹取山産である（1932）。

檜山庫三氏は“ヒトツバジュウモンジシダ関東にあり”と発表されたことで，神武寺隣接の鷹取山が関東における新産地であると知り得ても，発見者が発表せずになってしまうことが多いので，他にも採取されているかもしれないと檜山氏はいつている。その通りであると著者も思うが，とにかく関東における文献は他に見当らなかった。しかし久内清孝先生は関東にもすでに知られていたといわれている。

[194] *Polystichum tripterum* (KUNZE) PRESL

form. *subbipinnatum* (KODAMA) H. ITO オオシュモクシダ（児玉 ex 中井，1919） Ch(e)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

箱根：神山（田代信二・飯田 和，1958. 8. 4）。

これはジュウモンジシダの1型で、母種より葉質うすく小羽片の深裂した型である。同じく上記神山で秋山 守氏採品（1965. 10. 17 YCM）は最下第一羽片だけでなく第二羽片まで長大となったものであるが、小羽片はあまり深裂していないので、単なるジュウモンジシダの1型としておきたい。

さらにジュウモンジシダの1型に飯田 和氏が、トリアシシダと新称したものがある。それは箱根須雲川で採取（青木捷夫・国見 卓・飯田 和，1959）されたもので、母種の最下羽片の下向第一裂片が長大となり再裂したものである。

ジュウモンジシダは前記のようにいろいろ変異のおこるものであるが、これらの性質がはたしてどこまで安定するものかが問題である。したがって栽培観察の結果を待つべきであろう。

[195] *Polystichum tsus-simense* (HOOK.) J. SMITH ヒメカナワラビ（田中，1871）（キヨシミシダ，松村，1886）H(e)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

横浜：保土ヶ谷区下川井スギ林下（出口長男，1958，宅造のため絶滅したが，出口氏移植保存している，しかし著者は前記産地を確認していない），金沢区朝比奈（村上司郎・野間俊之，1958. 4. 8），同区釜利谷町（高桑正敏，1962. 3. 27 Det. 大谷 茂，1967. 10. 8）。

三浦：横須賀市衣笠城趾中陣（大谷 茂，1953. 11. 23；同，1954. 2. 6 YCM），同市大谷戸川・深山川・平作川上流山田谷戸・前田川上流釜尻谷（大谷 茂，1954 確認），同市岩戸（小板橋八千代，1966. 1. 21 YCM），同市平作（小板橋八千代，1966. 12. 9 YCM）。

葉山町二子山（大谷 茂，1951. 12. 23 YCM；同，1954. 8. 2 YCM；同，1956. 8. 6 YCM），同町長柄奥地（大谷 茂，1953. 5. 17 YCM），同町木古庭（大谷 茂，1953. 12. 23 YCM），同町仏塚山（大谷 茂，1959. 12. 29 YCM）。

逗子市神武寺（大谷 茂，1955. 8. 12 YCM；同，1959. 8. 2 YCM；斎藤照一，1958. 9. 3 YCM），六浦～神武寺（斎藤照一，1959. 10. 5 YCM）。

大磯高麗山（守矢淳一，1955. 11. 3；逸見 操，1957. 8. 17 YCM）。

山北酒水滝（府川勝蔵，1934. 10. 21），同（逸見 操，1957. 6. 2 YCM），同（佐宗 守，1959. 12. 29 YCM），同（渡辺完徳，1960. 5. 29 Det. 大谷，1968. 9. 18），同（大谷 茂，1962. 1. 14 YCM），人遠（秋山 守，1959. 12. 28），高松山（秋山 守，1958. 4. 29）。

足柄下郡橋町羽根尾（西尾和子，1956），同町前川・上町（田代信二，1957）。

箱根湯本その他（箱根植物目録，1913）。

湯河原（長谷川義人，1956. 6. 10 YCM），同広河原（大谷 茂，1957. 11. 10 YCM），同（大谷・石渡 宏，1961. 12. 26 YCM，2点）。

前記産地の他著者は道了山に確認している（1954）。なお丹沢ユージンに報告あるも著者は確認していない。

[196] *Polystichum tsus-simense* (HOOK.) J. SMITH

var. *Mayebarae* (TAGAWA) KURATA オオキヨズミシダ（田川，1934）H(e)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

三浦：横須賀市田浦温泉谷戸（大谷 茂，1962. 6. 24 YCM，三浦半島新産），同（大谷 茂，1962. 8. 25；1964. 6. 10 YCM）。

山北：人遠（田代信二，1958. 7. 13 YCM），同（秋山 守，1960. 5. 15 YCM），酒水滝（佐宗



守, 1959. 12. 29 YCM), 同 (大谷 茂, 1962. 1. 14 YCM), 同 (石渡 宏, 1962. 2. 4 YCM)。箱根畑宿 (倉田 悟, 1954), 同 (飯田 和, 1957. 8. 30 YCM)。

奥湯河原 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957), 同 (大谷 茂, 1961. 12. 26 YCM)。

オオキョズミシダは葉身の大きさ, 葉の色沢, 羽片・小羽片の切込, 包膜の大きさ, ソーラスのつきかた, 葉軸下部の鱗片などに特徴のあるシダであるが, キョズミシダとオニイノデの中間的な形態を示すもので, ヒメカナワラビに近似のものからオニイノデに近似のものまで, かなり変異のあるものである。

倉田 悟先生はキョズミシダを一方のまとまった群とし, これとオニイノデとの間を結ぶかなり変異の幅の広い群をオオキョズミシダと考えるのが妥当であると言われている。

本羊歯のタイプは前原勘次郎氏が, 九州肥後の球磨川沿岸の一勝地で 1930 年に採取されたものであって, これに基づいて田川基二博士が 1934 年に命名記載されたものである。このタイプ標本はその最もオニイノデに近い型を示しているようである。

[197] *Polistichum Shimurae* KURATA シムライノデ (倉田, 1968) Ch(e)(r)D<sub>1</sub>R<sub>3</sub>

相模, 足柄上郡山北 (古瀬 義, 1966. 9. 27 TOFO, 神奈川県新産)。

本種はカタイノデによく似ているもので, まだ正式に発表されていないが, 倉田先生が上記の学名を用意され近く発表されるものである。

この羊歯は初め志村義雄氏が御殿場市上小林で気づかれたもので, 同氏より著者に寄せられた手記によると発見当初のことが明らかにわかる。

(志村義雄氏手記): 私は 1965 年頃に御殿場市上小林でこのシダにおめにかかり, 当時はカタイノデ位に思っていたが, 何となく気がかりで 1967 年 6 月に再度ここへ行き調査し, その標本を倉田先生に送ったところ, カタイノデであり, たくさんあれば興味があるが……との返事があった。しかし私は上記上小林より自宅に移植し 1 年間観察した結果, 今年 (1968) 10 月下旬に再び倉田先生にカタイノデとは異なる旨申上げたところ“実はその後, 中国大陸に同一のものがあり, また山北町でも採集された。御説の通りカタイノデとは異なり新種であり他日公表する”と御回答があった。

この御殿場産の株は東京小石川植物園に栽植されていると倉田先生からの便りにあった。

(以下次号につづく)

## Summary

### I. Introduction

This report is continued from No. 14 (1968) of this Bulletin.

The following genera of Aspidiaceae growing in Kanagawa Prefecture are treated here: *Lunathyrium*, *Matteuccia*, *Onoclea*, *Polstichum*.

The habitats given for each species are those where the specimens investigated by the author were collected. Other habitats are reported from trustworthy literature or from personal observations of the author.

The manner of citing the family, genus, species, life form and reproductive form is the same as in the previous issue. However, where a more recent taxonomy has been published, this latter has been preferred.

In this report many hard-to-classify forms of *Lunathyrium* and *Polystichum* are dealt with; complete clarification of these forms must await future research.

## II. Important Notes

### A. Sect. Athyriopsis

The genus *Lunathyrium* is divided into three sections, *Lunathyrium*, *Athyriopsis*, and *Dryoathyrium*. Of these, *Athyriopsis* is taxonomically difficult to classify, with many problems yet unsolved. A comprehensive understanding of the whole section awaits further work.

Probably the following will remain as valid species: *Lunathyrium petersenii* H. OHBA, *L. japonicum* KURATA, *L. subdertoidfrons* H. OHBA, *L. conilii* KURATA, *L. augustatum* H. OHBA, *L. dimorphophyllum* KURATA, will probably be deleted as valid species.

The classification of *Athyriopsis* will probably be changed in the near future through the work of Hideaki Ohba.

B. *Lunathyrium unifurcatum* KURATA and *L. unifurcatum* var. *Okuboanum* KURATA Compared with *L. unifurcatum* var. *Okuboanum*, *L. unifurcatum* has the following characteristics:

1. The rhizome is long and creeping. Consequently, the leaves are sparse.
2. The scales are blackish brown and abundant from the petioles to the rachis.
3. The leaf blades are narrow with shallow lobation of the pinnae.

With these characteristics typical specimens of both forms can be easily distinguished, but intermediate forms appear which are difficult to classify.

Since graded intermediate forms appear, the author is against treating *L. unifurcatum* var. *Okuboanum* as an independent species. It should rather be treated as a variety.

*L. unifurcatum* var. *Okuboanum* is found widely throughout Honshu, Shikoku and Kyushu, but *L. unifurcatum* is found only on Honshu west of Suruga, and in Shikoku and Kyushu, and hence is not found in the Kanto area.

### C. *Polystichum* Hybrids

Recently much work has been done on fern hybrids. It is now known that natural hybrids of the genus *Polystichum* occur.

In particular, Dr. Satoru Kurata has shown that every possible combination of natural hybrid occurs in the section *Metapolystichum*. For this precise reason, *Metapolystichum* presents many difficult problems.

The natural hybrids of sect. *Metapolystichum* occurring in Kanagawa are as follows:

1. *Polystichum* × *anceps* KURATA
2. *P.* × *hakonense* KURATA
3. *P.* × *lidanum* KURATA
4. *P.* × *indae* KURATA
5. *P.* × *izuense* KURATA
6. *P.* × *kurokawae* TAGAWA
7. *P.* × *mashikoi* KURATA



8. *P.* × *miuranum* KURATA  
 9. *P.* × *Namegatae* KURATA  
 10. *P.* × *Ohtanii* KURATA  
 11. *P.* × *Okanum* KURATA  
 12. *P.* × *ongataense* KURATA  
 13. *P.* × *Shimurae* KURATA

*Polystichum* × *miuranum* and *P.* × *Ohtanii* have been under investigation on the Miura peninsula since 1964, and is well-known to local researchers. It has been published officially for the first time by Dr. Satoru Kurata in this issue.

In *P.* × *miuranum* the sori burst immediately, but they are without spores.

Both of these hybrids are found abundantly on the Miura Peninsula. (to be continued)

#### 引用文献

- 朝倉修一・外 3 氏. 1957: 小田原付近の羊歯植物目録: 5.  
 出口長男, 1968: 横浜植物誌: 59, 64, 65, 67.  
 箱根植物調査会. 1913: 箱根植物目録, 箱根植物: 39, 101, 103, 150.  
 林 実. 1934: ヒトツバジュウモンジシダを出雲に採る, J. J. B 10 (5): 65-66 (Photo. p. 65).  
 林 弥栄・外 3 氏. 1961: 丹沢山塊の植物調査報告, 林業試験場研究報告 133: 46-47.  
 檀山庫三. 1934: ヒトツバジュウモンジシダ関東にあり, J. J. B 10 (10): 60 (Photo. p. 59).  
 神奈川県立横浜翠嵐高等学校生物部. 1960: 丹沢山塊植物目録, 丹沢山塊生物相調査報告: 2.  
 倉田 悟. 1953: 三浦半島のシダ, 植物趣味 15 (1~2): 11, 14.  
 倉田 悟. 1954: アカメイノデ, シダ類ノート (2)—9. 北陸の植物 3 (3): 63, 65.  
 倉田 悟. 1954: チャボイノデ・アスカイノデ, シダ類ノート (3)—17・18, 北陸の植物 3 (4): 81, 82, 83.  
 倉田 悟. 1955: アイアスカイノデ・オニイノデ, シダ類ノート (4)—19・20, 北陸の植物 4 (1): 14~17.  
 倉用 悟. 1956: イナイノデ, シダ類ノート (9)—28, 北陸の植物 5 (3): 77, 78.  
 倉田 悟. 1957: オオキヨズミンダ, シダ類ノート (11)—34 北陸の植物 6 (1): 8.  
 倉田 悟. 1957: ムクゲシケシダ, シダ類ノート (13)—41, 北陸の植物 6 (3): 69~71.  
 倉田 悟. 1957: ミツイシイノデ・オンガタイノデ, シダ類ノート (14)—42・43, 北陸の植物 6 (4): 112, 111~114.  
 倉田 悟. 1958: イノデモドキ・カタイノデモドキ, シダ類ノート (16)—48・49, 北陸の植物 7 (2): 39, 40, 42.  
 倉田 悟. 1958: アマギイノデ, シダ類ノート (18)—54, 北陸の植物 7 (4): 114, 116.  
 倉田 悟. 1960: ナチシケシダ, シダ類ノート (20)—61, 北陸の植物 8 (2~4): 81, 84.  
 倉田 悟. 1961: ハコネイノデ・アイアスカイノデ, シダ類ノート (21)—67, 68, 北陸の植物 9 (3~4): 96, 97, 99, 100.  
 倉田 悟. 1962: フナコシイノデ, シダ類ノート (26)—93, 北陸の植物 11 (1): 4, 6.  
 倉田 悟. 1964: 日本のイノデ類, 横須賀市博物館研究報告 10: 31, 32.  
 倉田 悟. 1967: イノデ類の雑種について, 日本シダ学会々報 25: 1~4.  
 守矢淳一. 1953: 高麗山付近植物目録: 25.  
 西尾和子. 1960: 西丹沢採集記, 日本シダの会々報 43: 5.  
 行方沼東・倉田 悟. 1961: 日本産シダ植物総目録, シダの採集と培養: 306~315.  
 西田 誠・外 2 氏. 1964: シダ植物の分布と生態, 丹沢・大山学術調査報告書: 179, 180.  
 大谷 茂. 1936: 神奈川県植物雑記其一, 植物趣味 5 (1): 11~13.  
 大谷 茂. 1957: 三浦半島羊歯植物への寄与, 横須賀市博物館研究報告 2: 8.  
 大谷 茂. 1958: 羊歯植物, 神奈川県植物誌: 11, 13, 16~18.  
 大谷 茂. 1960: 神奈川県産植物の報告, 横須賀市博物館研究報告 5: 28.  
 大場秀章. 1963: 千葉県西部のシダ植物, 横須賀市博物館研究報告 8: 56.  
 大場秀章. 1966: 日本産ミヤマシケシダ属の考察その二, 横須賀市博物館研究報告 12: 26~30.  
 杉本順一. 1966: 日本草本植物総検索誌, シダ植物篇: 295, 296, 306~308, 310, 311, 314~316, 318~320.  
 帝国女子医薬専門学校薬学科第 2 回卒業生. 1932: 武蔵登戸付近植物目録: 62, 63.  
 田代信二. 1958: オニイノデの新産地, 日本シダの会々報 34: 5.  
 田代信二. 1959: ヤシイノデ採集詳報, 日本シダの会々報 41: 4-5.  
 歌川義男. 1955: 城山(神奈川県)採集記, 野草 197: 6-7.  
 A. Franchet and Lud. Savatier. 1879: Enumeratio Plantarum Japonicarum 2: 204, 227, 228.

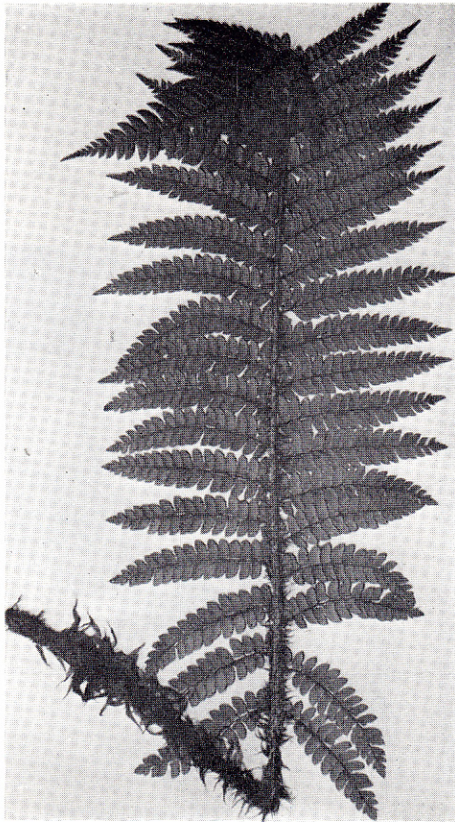


Fig. 1. a leaf

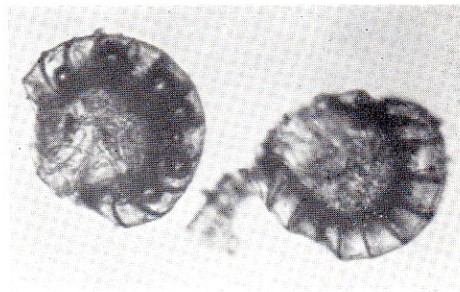


Fig. 3. sporangia (sterile)

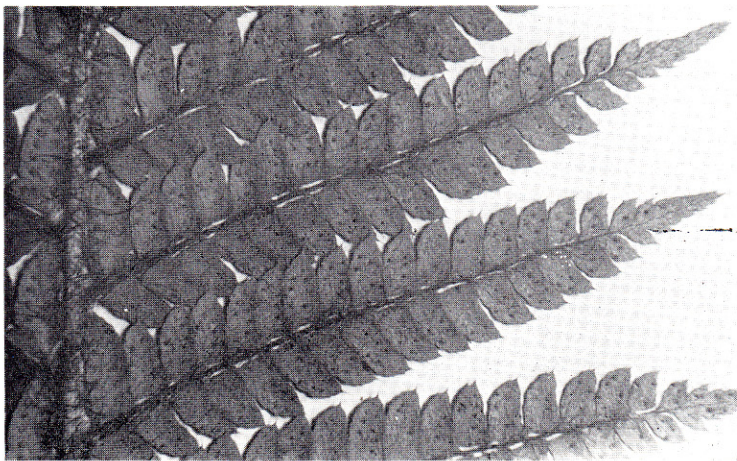


Fig. 2. pinnae of middle part

*Polystichum* × *miuranum* KURATA ミウライノデ

Type individual cultivated in Koishikawa Botanical Garden collected by Dr. Kurata from Take-yama, Yokosuka-city, Kanagawa-pref.





Fig. 4. a leaf

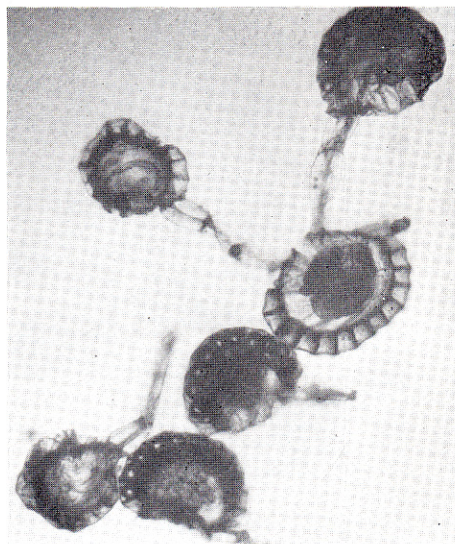


Fig. 6. sporangia (sterile)

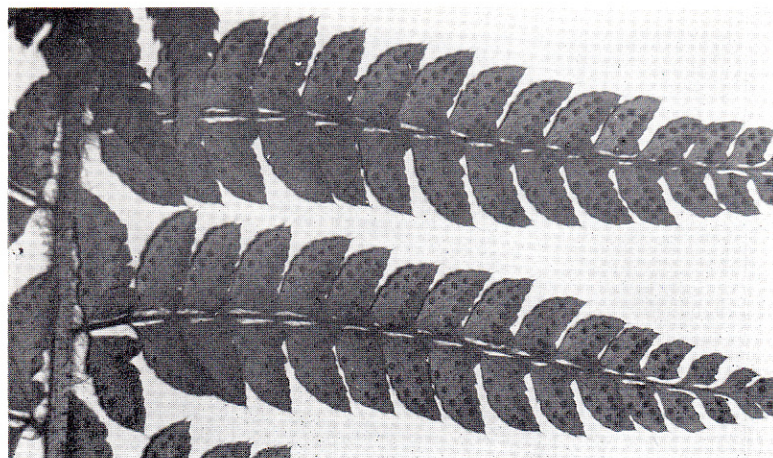


Fig. 5. pinnae of middle part

*Polystichum* × *Ohtanii* KURATA オオタニイノデ

Type individual cultivated in Koishikawa Botanical Garden collected by Dr. Kurata from Taura, Yokosuka-city, Kanagawa-pref.





Fig. 7. *Matteuccia orientalis*, Hatajiku, Mts. Hakone, Prov. Sagami. イヌガンソク (相模, 箱根, 畑宿, Aug. 31, 1965 守矢淳一氏撮影)。

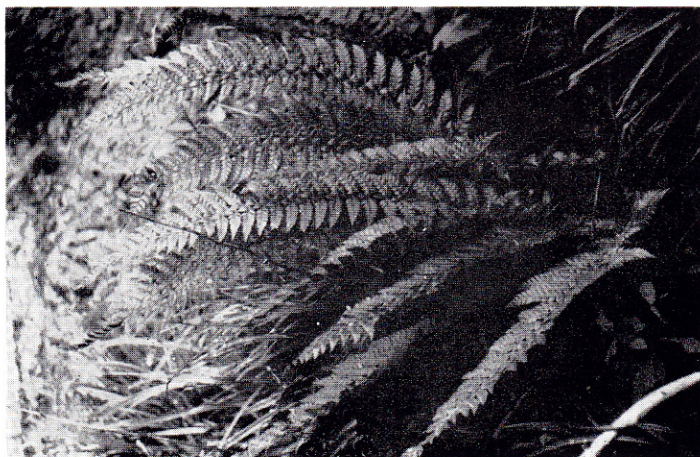


Fig. 8. *Polystichum neo-lobatum*, Nishi-tanzawa, Mts. Tanzawa, Prov. Sagami. ヤシヤイノデ (相模, 丹沢山塊, 西丹沢, Aug. 18, 1958 田代信二氏撮影)。





Fig. 9. *Polystichum* × *hakonense*, Sukumogawa, Mts. Hakone, Prov. Sagami. ハコネイノデ (相模, 箱根, 須雲川, July 1959 田代信二氏撮影)。

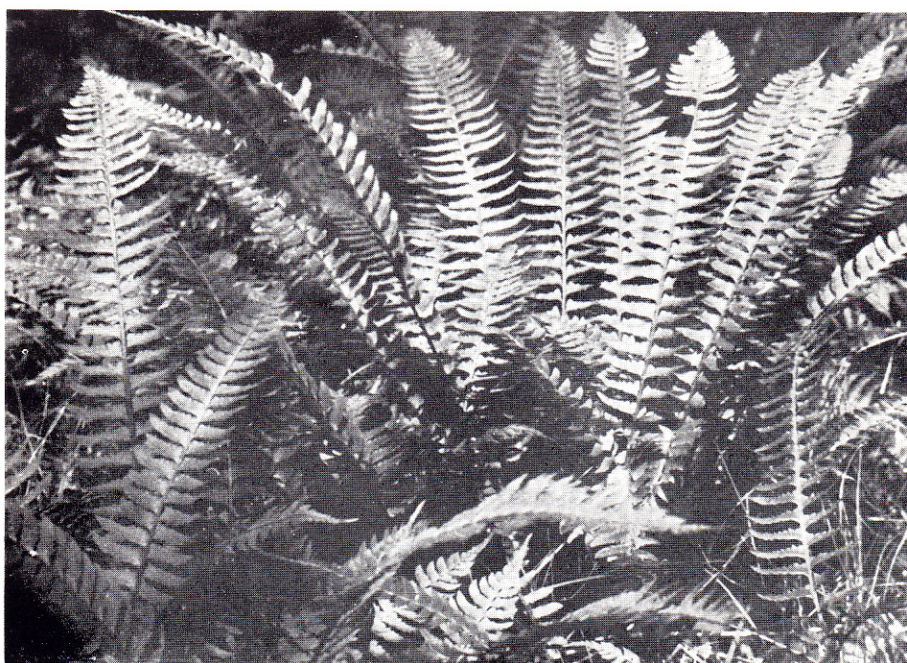


Fig. 10. *Polystichum tripterum*, Hatajiku, Mts. Hakane, Prov. Sagami. ジュウモンジシダ (相模, 箱根, 畑宿, Aug. 31, 1965 守矢淳一氏撮影)。